

第1回北海道地域学校協働活動推進協議会（道北会場）

【道央】平成30年7月5日（木）（旭川市・上川合同庁舎講堂 他）参加者：66名

- 1 説明 「地域学校協働活動推進のポイント」
説明者 上川教育局教育支援課社会教育指導班主査

小島紀行

国の動向や北海道の現状を踏まえ、地域学校協働活動を推進する上でのポイントについて説明を行いました。

また、地域学校協働活動やコミュニティ・スクールについて、全国・全道の事例を紹介し、地域の特色を生かした取組について説明を行いました。

参加者からは「学校と地域が同じ目標をもって進めていくことの大切さを感じた」、「地域の一員としてやるべきことなど展望がもてた」などの感想が寄せられました。



- 2 講義 「障がいのある子どもたちや特別な支援を要する子どもへの対応について」
講師 上川教育局教育支援課義務教育指導班特別支援入パバイザ 但田寛和



特別な支援を要する子どもへの対応等について、具体的な事例を交えながら講義を行いました。

子どもたちと関わる中での悩みや、特別な支援を要する子どもの特性、指示の工夫や支援の視点等について、演習や話し合いを行いながら学びました。

参加者からは「演習が時々入っていて自分の頭で考えることができたのがよかった」、「ネガティブからポジティブの考え方がとても勉強になった」、「具体例の交流、講義、演習で濃密な時間だった」などの感想が寄せられました。

3 選択研修

- A 演習 「子どもの体力向上につながるプログラム」
講師 留萌教育局教育支援課社会教育指導班主査

英 洋 一

身近にあるものを使った運動や狭い場所でも簡単にできる「体力向上につながるプログラム」を体験しました。

文科省から出されている資料や全国の取組事例の紹介、危険予知トレーニング演習の紹介の後、運動プログラムの実技をとおり、知識と技術の習得を図りました。

参加者からは「身近なものの活用方法、関心の高め方について、広い視野をもてるようになった」、「身近なものを使い、楽しみながら行うコツを教えてください」などの感想が寄せられました。



B 演習 「自然体験・外遊びを促すプログラム」
講師 国立大雪青少年交流の家企画指導専門職

是安 聡一郎 氏

公園などで手軽にできる屋外活動について、リスクマネジメントを含め、理解を深めました。

室内でできる自然観察ゲームを体験した後、体験活動の意義や、活動時に考えられる危険について話し合い、指導者としての知識の習得を図りました。

参加者からは「自然の中で活動する際のリスクマネジメントについて大変参考になった」「ワクワク・ドキドキが色々な体験につながるといった」などの感想が寄せられました。



C 演習 「屋内活動プログラム」

講師 上川教育局教育支援課社会教育指導班社会教育主事

佐々木 直人

身の周りにあるもので遊びを創作するワークショップを体験しました。

「遊びを創る遊び」として、講師が新聞紙を活用した遊びを紹介し、参加者は、進め方やルールの設定等について、体験しながら理解を深めました。

参加者からは「今までは、工作の用意や遊び道具の準備等、指導員の負担が多かった。今回の『遊びを創る遊び』は手軽にできるので、ぜひ実践していきたい」、「大人が楽しいと思えたので、子どもはもっと楽しみながら創造できると感じた」などの感想が寄せられました。



D 演習 「親子で楽しむプログラム」

講師 上川教育局教育支援課社会教育指導班主査

小島 紀行

親子で一緒に楽しめる「バルーンアート」を体験しました。

「バルーンアート」を行う際の注意点の確認を行った後、実際に作品をつくることをとおして、指導技術の習得を図りました。

参加者からは「初めてバルーンアートをしたが、自分でできるものとは思わなかった。ぜひ子どもに見せてあげたい」、「とても楽しく体験できた。戻ってさっそく子ども祭りでも企画したい」などの感想が寄せられました。



4 情報交流 日常の取組や現状と課題の交流
進行 上川教育局教育支援課社会教育指導班主査

小島 紀行



グループごとに、各地域の活動の充実に向けた情報交流を行いました。

グループごとでワークショップを行い、それぞれが抱える悩みや課題を共有した後、フリートークで意見交流を行いました。

参加者からは「課題解決の視点を得ることができるなど収穫があった」、「他市町村の方々から様々な意見をいただき、大変刺激になった」などの感想が寄せられました。